

2019年度春学期 研究者交流支援制度 招聘プログラム実施報告書

農学部 准教授 吉本光希

招聘者：Germán Robert

所属機関：Agricultural Research Center, Institute of Physiology and Plant Genetic Resources,
National Institute for Agricultural Technology (アルゼンチン国立農牧研究所)

招聘期間：2019年6月17日～7月13日

今回招聘したロバート博士とのコラボレーションは、私がフランスにいた2014年にホスト研究者としてインターンシップ研究員（ロバート博士）を受け入れてから始まっている。2016年に本学に着任以降も引き続き、ストレス条件下でのオートファジー調節の研究を共同で続けており、本招聘により、分子間および生理学的レベルから農業的レベルで研究をお互いに補完しあうことで、現在リバイス中の論文を早期に完成させることを目的とした。27日間の滞在の中で、ロバート博士と論文作成のためのディスカッションと実験を行い、論文投稿まであと一歩のところまでこぎつけることができた。

また、ロバート博士はアルゼンチンのコルドバ国立大学にも所属しており、学生の指導にも精通していたため、研究室の学生の研究指導にも携わってもらった。その結果、学生たちは、新たな実験手法を習得するだけでなく、研究の楽しさや研究に対する姿勢なども実感することができた。加えて、ロバート博士にはラボセミナーにも参加してもらい、学生には英語でのプレゼンテーションを体験してもらった。英語での発表・ディスカッションするとてもいい機会を得ることができた。

さらに注目に値する点として、ロバート博士の訪問は研究者間だけでなく、アルゼンチンと日本の研究機関間のより強い関係を結ぶためでもあった。ロバート博士と、明治大学農学部とアルゼンチン農牧研究所（INTA）の間で覚書を締結する計画について話合うことができ、今後速やかに進めていく予定である。機関間の合意は、学生と研究者の交流、共同研究活動、会議や学術集会などを促進するための優れたツールであると私たちは考える。したがって、このプログラムは教育、研究、その他の活動における学術および文化交流の発展のための第一歩になった。

本招聘プログラムの規定通り、ロバート博士は学部生・大学院生・研究者向けに植物の環境応答についての講義（セミナー）を3回行った。プログラムは以下の通りである。研究室以外からも研究者、院生、学部生などが参加して活発な議論がなされ大変盛況であった。

1. 6月24日（月）17：10～

生田キャンパス中央校舎 0311 番教室

Lecture 1

Plant environment.

Plant stress responses: oxidative stress and senescence

2. 7月1日（月） 17：10～

生田キャンパス中央校舎 0311 番教室

Lecture 2

Plant environment.

Biological Nitrogen Fixation: legume-rhizobia symbiotic interaction

3. 7月8日（月） 17：10～

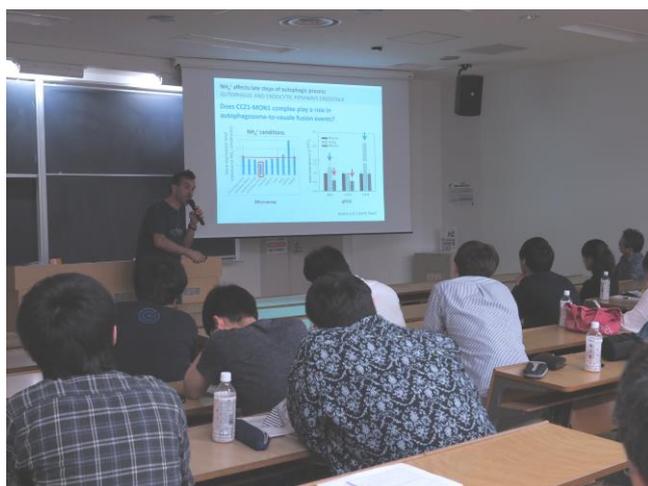
生田キャンパス中央校舎 0311 番教室

Lecture 3

Plant environment.

Autophagy in plants: one process, multiple physiological functions

最後に、ロバート博士の招聘を実現させていただいた本学研究者交流支援制度と、国際連携本部スタッフの皆様に厚く御礼申し上げます。



ロバート博士のセミナー風景